

第 106 回高等学校相撲金沢大会

大会規程

競技規程

公益財団法人日本相撲連盟競技会規程（一部を例外適用）、同審判規程による。

I. 競技規則

1. 競技は団体戦及び個人戦とする。
2. 団体戦の選手編成は 3 人制とする。
3. 団体戦の競技方法は、参加全団体により予選 3 回戦を行って優秀団体を決定し、その優秀団体によるトーナメント戦方式とする。優秀団体は、予選 3 回戦の勝ち数が上位の、原則として 3 2 校とし、勝ち数が同数の場合は、得点の上位団体とする。該当する団体が 3 2 を超える場合は、3 2 位と同勝ち数・同得点の団体も優秀団体として、3 2 を超える優秀団体によるトーナメント戦を行う。（規程による「同点決勝戦」を行わない。）

トーナメント戦の組合せ抽選は、予選終了後に会場内指定の抽選場で行う。

トーナメント戦の組合せは、予選の勝ち数・得点の実績に合わせてシード制を採用する。シードの方法は、国民体育大会の例に準ずるが、詳しい内容は監督会議で説明する。

4. 団体戦に出場する選手は、参加申込書に記載の 5 名のうち 4 名に限る。交代して出場できる選手は、「交代」「予備」の選手のうち 1 名とし、監督会議で決定する。団体戦における選手の出場順は、申込書の記載順とする。選手名の変更は、抽選日前日までに限り認める。
5. 個人戦の競技方法は、予選 3 回戦を行い 3 勝した優秀選手のトーナメント戦方式とする。個人戦の予選は、団体予選をもって兼ねる。

トーナメント戦の組合せ抽選は予選終了後行う。

トーナメント戦の組合せは、同一団体から 2 名以上の選手が出場する場合、あらかじめ A・B・C・D のゾーン指定ができるような方法を採用する。

II. 競技者規則

1. 参加団体・選手は、大会開始時刻 3 0 分前までに会場で受付を済ませること。
2. 選手は、まわし以外のものを身につけてはならない。ただし負傷者は、金属製支柱入りサポーターなど相手に危害を及ぼす恐れのないものに限り、包帯、サポーター、足袋等をつけることができる。
3. まわしは、選手の心構えを象徴するものであり、所定の締め方で、きつく締めなければならない。
4. まわしには学校名を示すゼッケン（2 5 センチ以内）及び段位取得者は段位章をつけること。
5. 選手は、放送で呼び出された後、土俵に上がり徳俵の内側で塩をまき、主審の号令で立礼を行う。立ち合いは選手双方が同時に両手を土俵につき静止した後、主審の「ハッケヨイ」の掛声により立ち合う。競技終了後は徳俵の内側にもどって、主審の号令でお互いに立礼する。勝った選手はその場で「そんきょ」し、目礼して主審の「勝ち名乗り」を受ける。負けた選手はそのまま土俵を下りるものとする。
6. 選手は「立てまわし」「折込み」及び包帯などをつかんではない。また両手を「合掌」に組んではならない。つかんだ（組んだ）場合は、直ちに離さなければならない。
7. 団体戦の競技開始前及び終了後は、選手全員が土俵溜に整列し、主審の号令で立礼する。
8. 審判員協議の場合は、選手は速やかに土俵を下りて待機する。
9. 選手は手足の爪を短く整え、身体の清潔に留意して、不快感を与えるような言動をしないこと。

III. 審判規則

1. 競技の勝負判定は、当該審判員に限る。
2. 次のような場合は、審判員の協議で負けとする。
①負傷などにより、競技続行が不可能と判定されたとき ②禁手を用いたときまたは用いたと判定されたとき ③選手が勝手に競技を中止したとき ④故意に立たない選手と審判員が認められたとき ⑤審判員の指示に従わないとき
3. 禁手とは次のことをいう。
①拳で殴る ②胸部、腹部を蹴る ③目など急所を拳や指で突く ④頭髪、のどをつかむ ⑤前ぶくろをつかむまたは横から指を入れて引く ⑥一指または二指を折り返す ⑦噛む

4. 「張り手」については、審判員が協議し故意に用いたと判定した場合は負けとし、故意と判定しない場合は取り直しとする。
5. 競技中まわしの前ぶくろが解けてはずれた場合は負けとする。
6. 放送で呼び出しても土俵溜に入場しない選手は、負けとすることが出来る。
7. 競技はすべて「まった」なしで行う。立ち合いは、仕切線の後方で、選手双方が同時に両手を土俵に付き静止させて立ち合うものとし、両手を瞬間的につく立ち合いは認めない。主審の掛声の前に立ち上がった場合など、不適当な立ち合いが行われたと認めるときは、主審の判断でやり直し、主審の掛声にかかわらず不成立を認めるときは、審判長の判断または審判員の協議でやり直しとする。立ち合いの正常化を求める。
8. 競技開始後 5 分を経過しても勝負が決しない場合は、競技を中止し、直ちにやり直しとする。

表彰規程

1. 団体優勝校には大会優勝旗（持ち回り）常陸宮賜杯（持ち回り）内閣総理大臣杯（持ち回り）参議院議長杯（持ち回り）北國新聞社大優勝杯（持ち回り）日本相撲連盟会長杯（持ち回り）チェコ共和国友好杯（持ち回り）中華人民共和国友好杯（持ち回り）石川県知事杯、北國新聞社金メダルを授与する。
2. 団体第 2 位校には北國新聞社杯（持ち回り）石川県議会議長杯、北國新聞社銀メダルを授与する。
3. 団体第 3 位校（2 校）には ①石川県相撲連盟会長杯、金沢市議会議長杯、北國新聞社銅メダル ②石川県体育協会会長杯、金沢市教育長杯、北國新聞社銅メダルを授与する。
4. 個人優勝者には大会優勝旗（持ち回り）衆議院議長杯（持ち回り）文部科学大臣杯（持ち回り）金沢市長杯、日本相撲連盟・北國新聞社金メダルを授与する。
5. 個人第 2 位選手には北國新聞社杯（持ち回り）石川県教育長杯、日本相撲連盟・北國新聞社銀メダルを授与する。
6. 個人第 3 位選手（2 名）には ①金沢市スポーツ協会会長杯、日本相撲連盟・北國新聞社銅メダル ②石川県公安委員長杯、日本相撲連盟・北國新聞社銅メダルを授与する。
7. 全対戦を通じて最高得点を得た学校には金沢商工会議所会頭杯を授与する。
8. 北信越最優秀校にはテレビ金沢杯（持ち回り）北信越相撲協議会会長杯、北國新聞社金メダルを授与する。
9. 北信越最優秀選手にはブラジル相撲連盟トロフィー（持ち回り）エフエム石川杯（持ち回り）北信越高等学校体育連盟会長杯、北國新聞社金メダルを授与する。
10. 前年度団体優勝校と個人優勝選手、及び北信越最優秀校、北信越最優秀選手にレプリカを授与する。
11. 個人戦出場の優秀 3 2 選手に全国高体連相撲専門部から優秀選手賞を授与する。

応援規程

1. 参加学校応援団は正々堂々自校の名誉を重んずること。
2. 参加学校応援団には責任者 1 名を置くこと。
3. 参加学校応援団は大会本部指定の場所に応援すること。
4. 放送による指示があったときはただちに応援を中止すること。
5. 参加学校応援団席の整理は各校応援団が行うこと。
6. 一般観戦を含めて、会場内での飲酒は禁止する。

公益財団法人日本相撲連盟
北信越高等学校体育連盟
北信越相撲協議会
北國新聞社